## 県指定文化財〈史跡〉

## 正観寺の礎石群

指定日 昭和40年2月25日 所在地 菊池市隈府 東正観寺



正観寺地蔵堂の基壇の周囲に礎石群がある。現在、礎石は基壇の東側に5個、西側に5個、北側に2列で5個と4個、そして外側の中央に接して2個ある。原初の礎石は20個と見られている。

比較的正確に並んでいる礎石について調査すると、東・西側の柱間は3.33m(11尺)、北側の各間も同じく3.33m、そして中央のみが4.24m(14尺)と見ることができる。

地形及び礎石の残存状況から考えると、正面は三間、側面四間の建物とみられる。 礎石の周辺から古代の布目瓦が灰とともに出土しており、遺物や周囲の状況から古代 (平安中・後期)の寺院跡と考えられ、当時の堂宇や庫裏があったと想定されている。

現在の正観寺は15代菊池武光が創建した臨済宗の寺院で、菊池五山の中心として栄えた。境内の観音堂は菊池33霊場の21番札所である。